

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市中部リハビリテーションセンター 中部地域生活支援センター	評価対象年度	令和7年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人 川崎聖風福祉会 ・代表者名 理事長 中澤 伸 ・住所 川崎市川崎区池上新町3丁目1番8号	評価者	障害者施設指導課長
指定期間	平成3年4月1日～令和8年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害者施設指導課

2. 事業実績

利用実績	相談支援活動件数 7,098件 地域活動支援センター登録者数 112名 (令和6年度末 208名、新規登録 6名、解除 102名)			
収支実績	【R7】		収支差額	
	収入		支出	
	経常活動	40,828,278円	経常活動	41,622,741円
	給付費	1,781,648円	人件費	31,419,883円
	川崎市単独扶助	0円	事務費	7,254,572円
	指定管理委託料	38,600,000円	事業費	2,690,886円
	その他	446,630円	その他	257,400円
	合計	40,828,278円	合計	41,622,741円
	※端数処理のため合計が一致しないことがあります。			
サービス向上の取組	・地域活動支援センター事業や計画相談支援事業といったそれぞれの事業において、中部リハビリテーションセンター内の他事業所と連携しており、計画相談の依頼や地域活動支援センターの利用相談などの直接的な連携をするだけでなく、当該施設の職員が支援方法に悩んだ際に他事業所から意見を得ることなどにより、多角的な視点を持って支援を提供することができた。 ・令和6年度から引き続き、ハートフル川崎病院と連携し、ピアサポート事業の一環として、入院患者に対し、地域移行への動機を高めることや、地域での生活のイメージづくりと不安軽減を目的に、テーマを決めて話を行う「ハートウォームの会」を実施した。			

3. 評価 (評価段階: 5→1, 標準: 3, 加点割合: 5→100%, 4→80%, 3→60%, 2→40%, 1→0%)

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	3	6
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	4	8
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
	(評価の理由) 【利用者への支援】 ・利用登録者の最新の生活状況を把握し、適切な支援ができるよう、利用登録を年度更新制に変更し、更新のための面談を令和6年度から継続して順次実施した。また、地域活動支援センター事業では、土曜日の電話相談において、生成アプリを導入し、録音、記録を行うことで、相談内容をより正確に把握し、同じ利用者から再度相談があった際に、より継続性をもって支援することができた。 ・ピアサポート活動では、ピアサポーターと協働で「田園調布学園大学社会福祉学科」の学生との交流講座を実施したほか、川崎市看護協会の認定訪問研修、ハートフル川崎記念病院との共同企画である「ハートウォームの会」を実施した。 【事業成果】 ・地域活動支援センター事業では、パソコン教室や体操などの各種プログラムを開催し、利用者の生活の充実に繋げるとともに、女性利用者が少ないという状況に対し、月1回の「女子会」を継続開催するなど女性利用者の獲得に向けた取組を推進するなどにより、1日当たりの平均来館者数17.7名を確保した。 ・地域移行・地域定着支援体制整備事業では、継続ケース10件と新規ケース6件の支援に取り組み、そのうち4件は病院からの退院後にグループホーム等に移行させることができた。グループホームに移行したケースでは、入院中は地域移行支援計画書の作成や個別給付申請を行い、退院後は計画相談を担うことで、地域での生活も不安なくソフトランディングできる支援を行っており、アパートに移行したケースでは、移行した方に対する支援が途切れないよう、その地域の相談機関に繋がった。 ・特定相談支援事業では、相談件数が増えていることに加え、令和5年度の途中から相談支援専門員を1名増加していることにより、新規ケース6件と継続ケースを合わせた計31ケースの計画相談に携わり、令和5年度、令和6年度と比較し、より多くのケースに支援を提供することができた。				
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	3	3
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	3	3
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
	適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3
		事業収支に関して適正な会計処理がなされているか			
	(評価の理由) 【支出状況・収入状況】 ・支出状況については、提案額や当初予算に基づき概ね執行計画に沿って適正に支出された。 ・収入状況については、計画相談支援の対象を地域活動支援センターA型事業の利用者以外にも対象を拡大したことから、計画相談の給付費が増え、提案よりも収入が増加したが、予算作成時に想定していたよりも利用者が少なかったことから、予算額と比較すると減少した。 【適切な会計手続】 ・社会福祉法人新会計基準に基づき会計処理を行った。法人が委託した2名の税理士が毎月財務状況を確認し、修正事項が認められた場合には、速やかに適正な会計処理となるように内部のチェック体制を整えている。また、決算時に監事監査を実施し、決算書類等が適切かつ適正に作成されているかの監査を実施した。				

サービス体制

適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	3	6
	利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
サービス向上への取組	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	4	4
	サービス向上に向けた取組がなされているか			
利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	3	3
	利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
(評価の理由)				
【適切なサービスの提供】 ・病院から地域移行を行う利用者に対して、不動産会社への相談や物件の内見に同行するほか、病院及び行政とのカンファレンスの実施や利用者を地域相談支援センターに繋げるなどにより、地域生活を行う上でのサポートネットワークを広げること注力し、利用者の意思決定をサポートできるよう支援を提供した。 ・精神疾患に加え、知的障害との重複障害、LGBTQ等の多種多様な方が施設を利用されることから、多角的な視点でのアセスメントを行う必要があり、関係機関とのより一層の協力体制が必須であるため、個々の状態像に合わせて、中部リハビリテーションセンター内の地域支援室、在宅支援室及び日中活動センター等に連携協力を依頼し、支援に取り組んでいる。 【サービス向上への取組】 ・令和6年度から引き続き、ハートフル川崎病院と連携し、ピアサポート事業の一環として、入院患者に対し、地域移行への動機を高めることや、地域での生活のイメージづくりと不安軽減を目的に、「ハートウォームの会」を実施しており、令和7年5月から翌2月までは月1回(計10回)、施設職員、ピアスタッフ、ピアサポーターが病院に訪問し、入院前の生活や退院後の楽しみなどのテーマを決めて話をし、令和6年度よりも参加者が増加したことから、2グループに分けて実施した。また、4月と3月にはそれぞれ、病院の入院患者に対しての事業の説明会と病院及びはるかぜのスタッフでの年間振り返りを行った。振り返りにあたっては、次年度への改善点などについて、検討を行った。 ・法人内の入所施設や養護老人ホーム、相談支援事業所等が集まり「地域移行・定着支援の勉強会」を開催し、地域移行及び地域定着支援に特化した事例検討を実施することで、利用者へのサービスの質の向上を図った。 ・自身の意見を主張するための練習の場として、月1回利用者ミーティングを開催し、司会や記録などの役割を分担することや、ピアサポーター2名が参加することで、利用者が意見を出しやすい雰囲気作りを行うとともに、そこであった意見要望については、職員間で共有、検討することで、早期解決に努めた。また、利用者ミーティングの内容は、利用者自身が議事録を作成し、見てもらいやすい場所に定期的に公開している。 ・日々の職員ミーティングでは、利用者に関する情報共有を職員全員で行い、利用者の現状について職員全員が把握するよう努めた。また、週に1回、施設運営のスーパーバイザーを交えて2時間程度に拡大した職員ミーティングも実施し、支援困難なケースの事例検討や施設運営における課題の共有化などに取り組んだ。 【利用者の意見・要望への対応】 ・意見・要望等に対しては迅速かつ誠実に対応するとともに、職員間で意見交換しながら問題の早期解決に努めた。また、定例の利用者ミーティングで周知したほか、利用者の意見等を施設運営に反映するよう努めた。 ・施設内で利用者間でトラブルが発生した場合は、利用者自身で問題を解決する力を養うため、職員がすぐに介入するのではなく、問題解決に向けたバックアップ的な支援を実施することで、利用者の地域における生活力の向上を図った。				

組織管理体制

適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	3	3
安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	3	3
	緊急時の連絡体制を構築しているか			
コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用がなされているか	5	3	3
職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	3	3
(評価の理由)				
【連絡・連携体制】 ・事故等の重要案件の発生時は、所管課をはじめ、関係機関や法人本部に速やかに報告を行うことを徹底している。また、法人本部及び事業所の連絡先の緊急連絡網を作成し、迅速な対応ができるよう連絡体制を整えるとともに、令和7年度から、安否確認サービスアプリを導入し、大規模災害時にも連絡体制を確保できるよう、取組を進めている。 【担当者のスキルアップ】 ・職員の資質の向上のため、相談支援に関する知識や技術の習得のほか、倫理観、権利擁護意識の向上等を目的に、令和7年度は内部研修に2回、外部研修に11回参加した。また、外部研修を受講した職員が、職員ミーティングにて報告や伝達研修を実施することで、全職員で研修内容を共有した。 【安全・安心への取組】 ・事故が発生した場合、事故の原因究明及び分析と、今後の改善策等を発生後すぐに所内で検討し、改善に努めている。 ・中部リハビリテーションセンター内の全事業所で年2回、合同防災訓練を実施しており、第1回は火災発生を想定、第2回は地震と火災発生を想定して行った。また、全職員を対象にBCP研修を年2回実施することで、災害時や感染症流行時の対応を全職員が習得した。 ・アルファ米や飲料水などの非常食について、事業所の定員数と職員数分の3食、3日分の備蓄をしている。 【コンプライアンス】 ・法人の法令遵守規程を事業所内に掲示するほか、各種法令を遵守しながら、新規利用の利用者との契約を行っている。 ・年2回開催される法人内の虐待・身体拘束防止対応委員会に施設長が参加し、事業者間で課題の把握や分析、今後の改善策等の検討を行った。また、当施設内でも、虐待防止担当者(管理者)、受付担当者を中心に、外部研修を受講した職員による伝達研修や実際の事例をもとに意見交換などを行うことで、日頃の支援に対する振り返りを行うなど、所内全体で権利擁護や虐待防止の意識の向上に努めた。 【職員の労働条件・労働環境】 ・法人の安全衛生委員会による職場巡視を実施し、その際あった指摘事項を速やかに改善するなどにより、労働環境の把握、改善に努めた。				

適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
(評価の理由) 【施設・整備の保守管理】 ・中部地域支援室が一体的に保守管理を行っており、利用者が安心、安全に施設を利用できるよう、建物や施設整備のため、空調やエレベーターの保守点検を実施している。 【管理記録の整備・保管】 ・業務日誌、ケースファイルは、鍵付きキャビネット内に保管している。また、カンファレンス等で個人情報が含まれる書類を外部へ持ち出す際は、管理簿でいつ、誰が、どんな理由で持ちだすのかを記載するとともに、戻った際は、いつ戻したのかを記録し管理している。 ・PCのセキュリティ対策のほか、外部機関へのメール送信時の添付ファイルにはパスワードを設定するとともに、FAX送信時には誤送信防止のため、二重の確認を行うなど、所内での管理体制を統一し、徹底している。 【清掃業務・警備業務】 ・施設内の日常清掃、定期清掃等や、警備業務については、中部地域支援室の調整のもと、業務委託などが行われている。 【備品管理】 ・備品台帳にて法人本部とも連携して管理を行い、消耗品の管理も管理簿をもとに定期的に担当がチェックし、計画的な補完・補充に努めながら在庫管理を行った。					

4. その他加点

分類	項目	着眼点			評価点
その他加点	市の政策課題への取組	第三者へ一部の業務委託を行う際の市内中小企業者の受注機会の確保・拡大や地域包括ケアシステムの構築に向けた取組への協力、障害者の法定雇用率を越える雇用などを行っているか			1
	(評価の理由) ・ピアサポート活動に興味がある方のための入門編の講座としてピアサポーター講座を共催するほか、ピアスタッフを中心にそれぞれの体験や思いを共有する「おしゃべりサロン」を実施した。また、田園調布大学への出張講座の実施や、5カ所の精神科病院に対して当施設の事業に関する説明を行うなど、ピアサポートの活動支援を行った。				

5. 総合評価

評価点合計	64	評価ランク	C
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A～E,標準:・C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→50点以上60点未満,E→50点未満
 A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

・利用者ミーティング等を活用し、意見や要望に対して迅速に対応できるよう取り組むとともに、週1回外部のスーパーバイザーに対して支援困難なケース事例などについて相談し、様々な視点で助言を受けるなど、施設運営での課題の共有等を職員同士で十分に話し合いながら課題解決に取り組んだ。 ・ピアサポーター講座や川崎市看護協会の認定訪問看護研修を実施するとともに、ハートフル川崎病院と連携し、「ハートウォームの会」を行うなど、ピアサポートや地域移行・地域定着に対して、関係機関と連携して取り組んでいる。
--

7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

・地域活動支援センターの利用者に対し、利用登録の更新面談を実施することで、生活状況を把握し、支援の充実に繋げる取組や、令和6年度から継続実施している「ハートウォームの会」など、引き続き、本施設の役割を十分果たせるよう、安定的な運営とより良いサービスの提供に努めること。
--